

内閣官房内閣情報調査室 採用案内2020

CABINET INTELLIGENCE and RESEARCH OFFICE



内閣官房内閣情報調査室

〒100-8968 東京都千代田区永田町1-6-1 内閣府庁舎6階
TEL 03(5253)2107(採用専用) TEL 03(3581)5083(直通)



情報の世界を志す皆さんへ



内閣情報官
瀧澤 裕昭
HIROAKI TAKIZAWA

我が国を取り巻く安全保障環境は厳しい。非核化をめぐる米朝協議の行方が不透明化する中で、北朝鮮は弾道ミサイル発射を繰り返してきた。尖閣諸島周辺では、中国公船が頻繁に領海侵犯を行っており、我が国がエネルギー供給の大部分を依存する中東・湾岸地域でも、高い緊張状態が続いている。安全保障分野に関係の深い我が国の企業に対するサイバー攻撃も相次いでいる。

このような情勢下で、内閣情報調査室が果たすべき役割は、内閣の重要政策を情報面から支えることである。我が国最高レベルの政策決定者である官邸幹部への報告には、細心の注意を払わなければならない。政策決定者の情報関心を踏まえて計画的に情報を収集し、それらを効率的に整理・集約する。必要な分析を加えることで付加価値をつける。すべての段階が重要である。分刻みの日程で動く総理や官房長官に対して、迅速に、しかも限

られた時間の中でいかに有意義な報告を行うか、楽ではないが、我が国の国益に直接貢献できるやりがいのある大きな仕事である。

内閣情報調査室には、我が国情報コミュニティの調整役としての顔もあり、政府全体の情報機能強化も重要課題の一つである。ここ数年、我が国政府は、国家安全保障会議(NSC)を発足させるなど、安全保障体制の強化に積極的に取り組んできたが、情報機能強化はその柱の一つでもある。重要機密情報の適正管理を目的とした特定秘密保護法が制定・施行されたことにより、外国関係機関との情報共有が大きく進んだ。官邸の直轄部隊として、主として海外で活動する国際テロ情報収集ユニット(CTU-J)も設置され、活動内容も拡充してきた。しかし、我が国の国際社会におけるプレゼンスに比べ、国としての情報機能には、まだまだ発展する余地がある。

情報の世界は、小説や映画で描かれるような派手な世界ではない。特定の個人に脚光が当たることも少ない。むしろ、地道な努力、忍耐力が求められる「縁の下力持ち」の世界である。一方で、情報収集にはいくつもの対象分野・手法があり、情報の集約や分析にもそれぞれのノウハウがある。必要とされる人材は、画一的ではない。各分野で実務経験を積むことにより、独自のセンスを磨き、専門性を身に付け、情報のプロとして活躍する職員も多い。柔軟な思考を持って、新たな課題に果敢に取り組む気概のある皆さんが、内閣情報調査室の一員に加わってくれることを心から願っている。

INDEX

情報の世界を志す皆さんへ	01
インテリジェンスとは何か 内閣情報調査室の業務について	
内閣の総合戦略機能、内閣官房	05
「インテリジェンス」を紡ぐ	06
総理の目と耳としての役割 ～政策決定プロセスの支援～	07
内閣情報調査室の組織体制	08
部門紹介 ～職員の声～	11
キャリアと未来 内調職員の声	
対談 情報の世界について(ベテラン職員編)	15
対談 情報の世界について(中堅職員編)	17
若手職員の働き方	19
キャリアステップ	21
キャリアステップ ～海外駐在・留学等～	22
両立支援(ワークライフバランス)制度 待遇・制度、採用について	23 24
2020年度採用スケジュール	25
内閣情報調査室の歴史と発展	26

インテリジェンスとは何か 内閣情報調査室の業務について

多くの人は、自分の見たいと思う
現実しか見ない — Julius Caesar

人間だからと言って、現実の全てが見える訳ではない。どんな人間も自分の仮説に合致する情報を重視し、それに反するものは軽視しがちである。しかし、正確な情報がなければ正しい決断を行えない。政策となればなおさらである、不確実な情報に基づいた判断で、悲惨な結果を招いた例は既にある。

時には「見たくないと思う現実」をも見つけ、客観的・中立的立場から情報を提供する。インテリジェンスとは、失敗できない政策決定を支える「縁の下の力持ち」なのである。



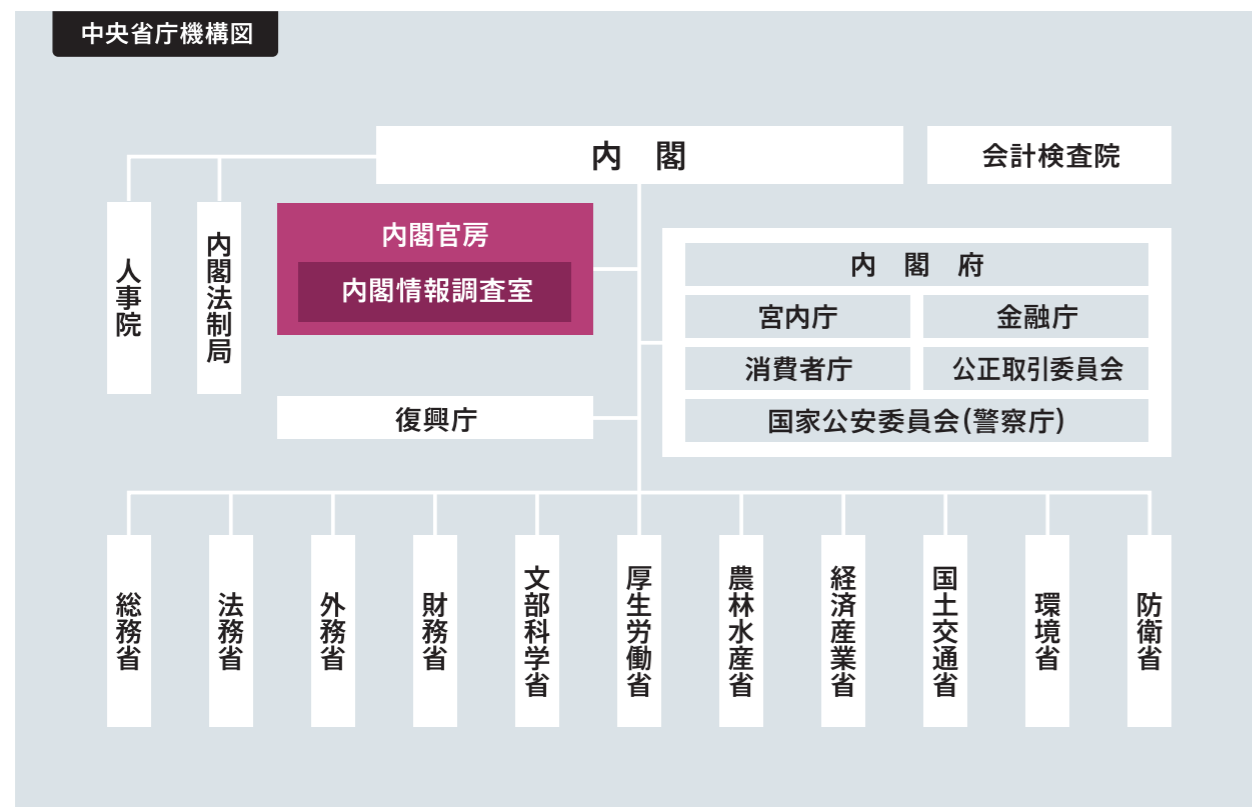
内閣の総合戦略機能、内閣官房



「内閣官房」は、内閣*の補助機関です。内閣の首長たる内閣総理大臣を、直接補佐・支援する、内閣の「総合戦略機能」を担っています(内閣法第12条)。

内閣官房の職務のうち、内閣情報調査室が担当し、内閣情報官が掌理する主な事務は、「内閣の重要政策に関する情報の収集及び分析その他の調査に関する事務」と定められており(内閣官房組織令第4条)、非常に幅広い分野を対象としています。

*内閣:内閣総理大臣と国務大臣で組織



大阪サミット



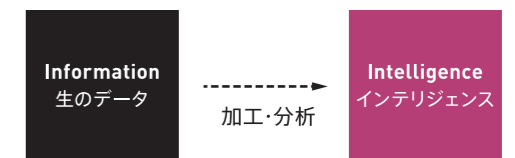
ローマ教皇

「インテリジェンス」を紡ぐ



内閣情報調査室の業務は、一般的な行政事務とは趣が異なります。タイムリーで質の高い「情報(インテリジェンス)」を紡ぎ出すことが、わたしたちの仕事です。

わたしたちを取り巻く様々な国内外の情勢や重要課題について、背景の調査・現状の把握・今後の動向の分析を、客観的・中立的・多角的な観点から行います。



内閣情報調査室における「インテリジェンス」の創造

収集:フットワークを生かす

国内外の様々な人から話を聞いたり意見交換を行うほか、公開情報の収集、海外の情報機関との情報交換等、積極的に情報収集を行っています。

分析:物事の背景、真相を解き明かす

様々な情報収集手段(公開情報、衛星画像、人的情報等)によって得られた情報に基づき、分析を行います。

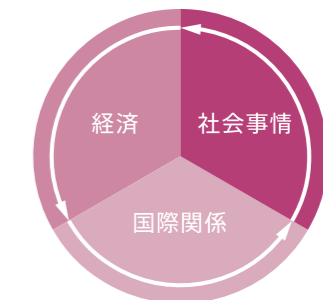


当室の業務は、時に「新聞記者」「学者」「商社マン」といった言葉になぞらえられます。こうした例えは、わたしたちの業務がいわゆる役人的な型にはまらないものであることを言い表しているのかもしれませんが。

縦割りにとらわれないオールジャパンの視点

特定の政策や分野に縛られない“オールジャパン”の視点から業務が行えることは、当室の大きな特徴のひとつです。

内閣情報調査室は、「内閣の重要政策に関する全ての情報」を取り扱っています。他の官庁がそれぞれの掌理する範囲内の情報を取り扱うのに対し、当室では特定の事項に限定されることなく、幅広い事象を対象として情報の収集・分析を行っています。



総理の目と耳としての役割 ～政策決定プロセスの支援～



インテリジェンスは、政策決定者の意思決定や判断を支援するために提供されます。

政策決定者が国家の進むべき方向性を決定する際、背景やリスク・利益といった物事の見通しがなければ、正しい判断を行えません。インテリジェンスとは、いわば国家という大きな船が航海する上での不可欠な海図なのです。



イラン訪問

インテリジェンスの提供

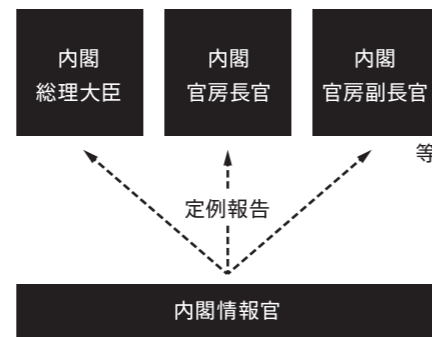
内閣情報調査室が提供するインテリジェンスは、様々な場面で国の政策決定を支援しています。

内閣総理大臣への定例報告

毎週定例の内閣総理大臣への報告を行っています。重要かつ緊急を要する情報については随時報告されます。総理の目と耳としての役割を果たし、官邸の柔軟かつ機敏な政策決定を支援しています。

国家安全保障会議(NSC)への参加

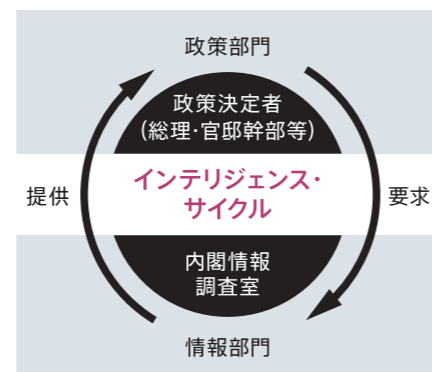
NSCに提供された情報は、国家安全保障局により、政策立案等のために活用されています。



インテリジェンス・サイクル

情報と政策は、分離しつつも密接にリンクしています。

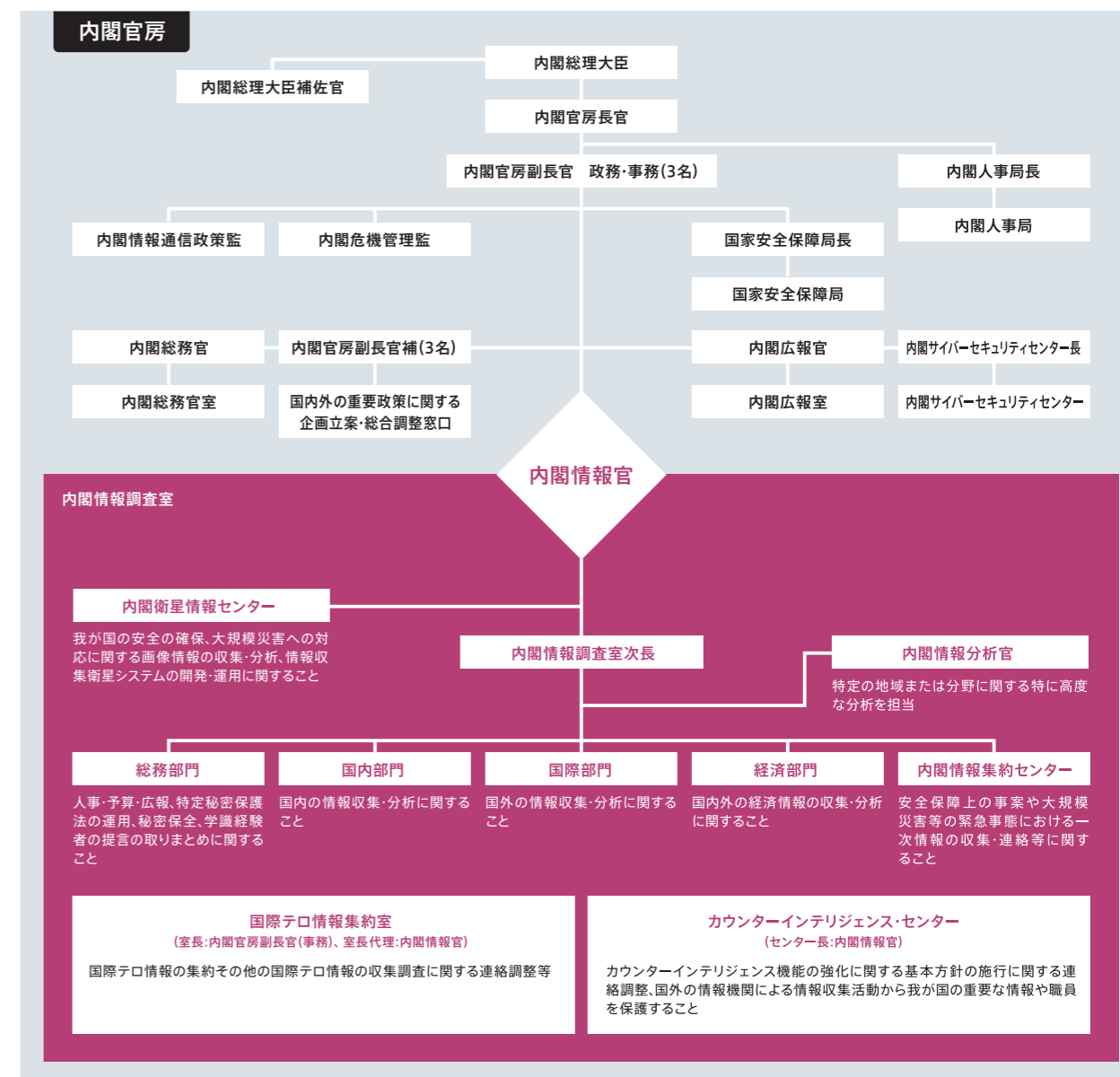
政策決定者が自ら情報収集を行うと、結論ありきの恣意的な内容になりかねません。政策を決める者(政策部門)と、情報を扱う者(情報部門)は、明確に立場を分ける必要があります。しかし両者は乖離することなく、密接にリンクしています。両者は、インテリジェンスの要求と提供を繰り返し、有機的なインテリジェンス・サイクルを形成しています。



内閣情報調査室の組織体制



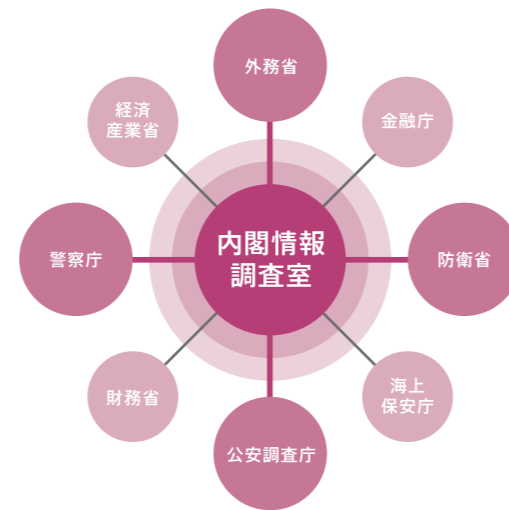
内閣情報調査室は、4つの部門を基礎とし、近年諸機能を加え、多機能型の総合的な機関として拡大しています。



情報コミュニティ省庁との連絡調整

内閣情報調査室は、情報コミュニティの「要」(結節点)としての役割を果たしています。

内閣情報調査室は、官邸の政策担当者として情報コミュニティ省庁、両者をつなぐ連絡調整の役割を担っています。閣議決定に基づき設置された内閣情報会議、合同情報会議、情報収集衛星推進委員会及び情報収集衛星運営委員会を開催する他、当室が中心となって関係省庁との連絡会議を随時開催し、いわば「オールジャパン」で内閣の政策判断を支援する体制が構築されています。

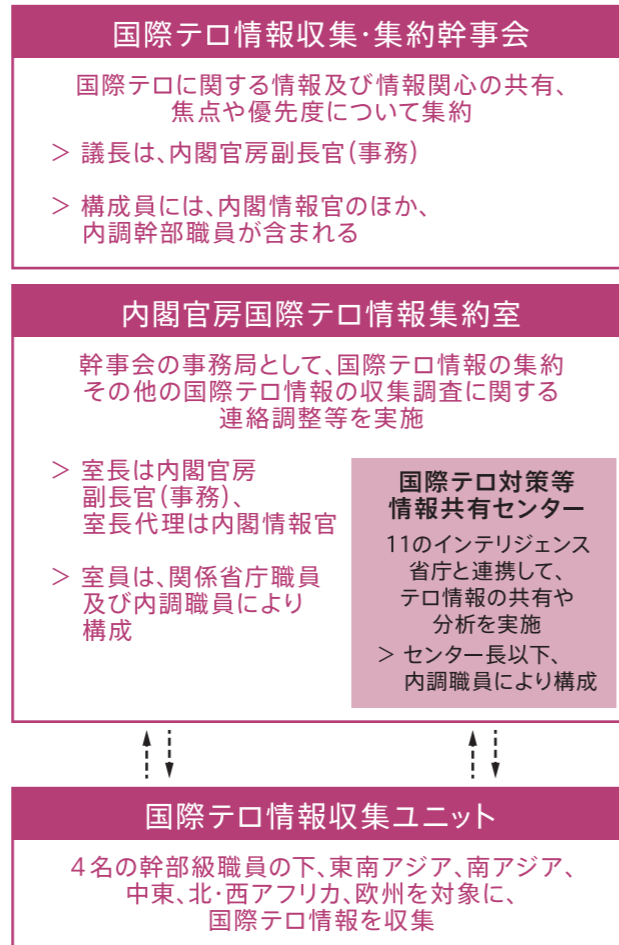


国際テロ情報の収集・集約体制

邦人の安全確保のため、官邸直轄で国際テロ情報の収集・集約体制が整備されています。

国際テロ情報の収集・集約体制としては、「国際テロ情報集約室」「国際テロ情報収集ユニット」の2つの組織体が整備されています。「国際テロ情報集約室」は、官邸幹部や関係省庁の情報関心の取りまとめ等を行い、これに基づいて、「国際テロ情報収集ユニット」が、いわば官邸直轄の実働部隊として情報収集を行っています。ユニットは、4名の幹部級の職員の下、東南アジア、南アジア、中東、北・西アフリカ、欧州の5地域を対象に活動しており、我が国として、海外を対象とした情報収集に取り組んでいます。

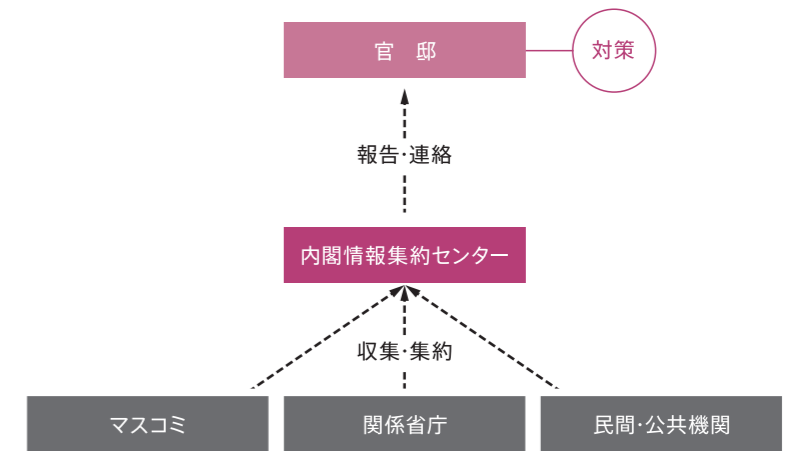
また、平成30年8月、「国際テロ対策等情報共有センター」が設置され、テロ情報への迅速な対応体制が更に強化されました。



緊急事態の初動対処

安全保障や災害に関わる情報を、当室から官邸幹部に速報します。

内閣情報集約センターでは、国内外の緊急かつ重要な情報を24時間体制で収集・集約しています。各省庁や内外の通信社との専用回線等のほか、災害発生時には防衛省・警察庁等のヘリコプターから映像をリアルタイムで受信するシステム等を備えています。



内閣衛星情報センター ~情報収集衛星の開発・運用~

内閣衛星情報センターは、外交・防衛等の安全保障や大規模災害への対応等の危機管理のために必要な画像情報の収集を行うため、情報収集衛星の開発・運用を行っています。情報収集衛星によって得られた画像情報は、内閣総理大臣・内閣官房長官への報告や、情報コミュニティへの報告書の作成・配付等、政府の重要政策の決定や情勢判断に際し、活用されています。

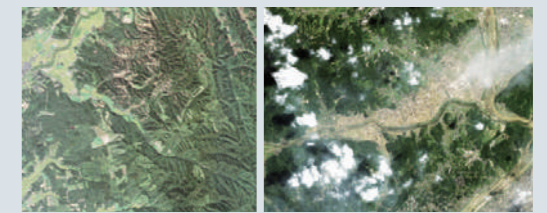


情報収集衛星 (Information Gathering Satellite) について

- 光学衛星とレーダ衛星を運用
- 4機体制から10機体制へ

【情報収集衛星画像の活用例】

我が国の安全保障や重要政策の決定に資するほか、右のような、災害時の被害状況を確認する資料としても活用されています。



北海道勇払郡厚真町吉野地区周辺 (平成30年北海道胆振東 部地震による土砂崩れ) 岡山県倉敷市真備地区 (平成30年7月豪雨による浸水被害)

最先端衛星の研究・開発の推進

研究・開発

課題例

- ① 衛星が撮像対象の上空を通過するのは瞬間的
- ② 1シーンで撮れる範囲は限定的
- ③ 情報を要求してからデータを得るまでに時間を要する

研究開発の主な取組

- ① 情報の量の増加
- ② 情報の質の向上
- ③ 即時性の向上

判読・分析

衛星画像を基にした高度な情報分析を行います。

運用

- ① 計画の立案
- ② 衛星との通信
- ③ 画像の処理
- ④ 画像の判読・分析
- ⑤ 報告書の作成
- ⑥ 報告書の配付

要求に基づき作成した撮像計画に従って、衛星の最適な管制計画を立案し、コマンドを作成

判読・分析した結果は、報告書としてまとめます。

撮像要求に応じて、報告書を利用省庁に配付します。

部門紹介 ～職員の声～

内閣情報調査室には、様々な情報の専門家及び専門家のたまごがいます。様々なフィールドで新たな課題に挑戦し、組織をリードし続ける6名の職員の声をお届けします。

国際部門



中堅職員・男性

多くの機会に恵まれながら

現在、国際部門で企画・調整業務に携わっています。内調と他省庁、あるいは国際部門と他部門の間に立ち、会議の設置や成果物の照会・刈取り等、両者の連携を促す立場にあるとともに、国際部門としての正式な意思決定を行う役目を部署として担っています。時には特定の事象に関し、当部門の代表として、他省庁・他部門と意見交換・調整を行うこともあります。加えて、これまで経験したことのない国際的事象の発生に際し、率先して対応を迫られることもあります。そういった意味では、好奇心旺盛な方向けの業務ではないかと思えます。

当室では、重要なポジションに比較的若手が配置される傾向にあります。それだけ、柔軟な発想、瞬発力及び細かい気配りが必要とされているのを感じています。時には経験の浅さから、調整に困難を伴うこともありますが、過去の資料から類似例を発見したり、先人の知恵・経験等を吸収するなどして、上司とともに解決策を見出し、見事に調整を終えることができた時の喜びはひとしおです。

国際部門に配属されて4年になろうとしています。これまで国外・国内への多くの出張の機会にも恵まれてきました。来年より、人事院制度を利用し海外大学院へ留学する予定です。これまでの業務で培った知識を深められるよう、そしてこれから後輩となる皆さんに道を残せるよう、精一杯頑張りたいと思います。



中堅職員・男性

限られた時間の中で

私は現在、国際部門で特定の地域に関する分析業務に従事しています。特定の地域や分野に関する情報を、公開情報・画像情報等あらゆる情報源をもとに収集・分析し、総理を始めとする官邸要路や政策部門に分析結果を伝えるための報告書を作成しています。

報告書の作成にあたっては、政策決定者の意思決定に資する資料となるよう、正確かつ多角的な分析を行うよう心懸けていますが、国際情勢のめまぐるしい変化に対応するためにはスピード感も求められます。特に、担当地域で突発的な事象が発生した際には、報告書の提出までに時間的な余裕がない場合もあります。限られた時間の中で分析の精度を高められるよう苦心する毎日ですが、なんとか満足いく報告書を作成することができた際には達成感があります。

当室の仕事は、求められるものが大きい分、やりがいも大きいです。皆さんとともに働ける日を楽しみにしております。

経済部門



ベテラン職員・男性

経済見ずして世界を語れず

現在私のいる経済部門は、マーケットの動向、国際経済・金融市場の主な動き、主要経済指標について情報の収集・分析や、各国貿易事情の情勢分析、労働厚生分野や農林水産分野の経済情勢分析等、幅広く調査・分析を行っております。

今後、我が国にとって経済安全保障分野の重要性は高まるばかりでしょう。例えば、軍需品を海外市場に依存しすぎれば、輸出国の情勢により物品の入手が困難になってしまいます。また、輸入品が電子機器のパーツだった場合、情報窃取が行われる危険性も否定できません。現在の世界情勢は、こうした経済と切り離せない各国の思惑が複雑に絡み合っています。経済を見ずして国際情勢を語ることはできません。

早いもので、内調に採用されて30年以上が経ちました。外務省出向、中東欧の在外公館勤務等を経て、蓄積された経験が現在に生きてきていると感じます。積極的に知見を広げ、世界情勢の奥行きを見据える気概を持った若い皆様に、ぜひ当室の扉を叩いてほしいと思います。

総務部門



若手職員・男性

点と点が繋がる感動

現在、総務部門にて、幹部職員の秘書としてスケジュール管理・調整や会議等へのアテンドを担当しています。情勢の変化と予定は連動しているため、日頃から様々なメディア等を通じて情報を収集し、先々を予測しながら業務を行っています。

秘書業務の面白さは、時に幹部の視点に立ち内調全体を鳥瞰できる点です。Need to Knowの世界において、各セクションの垣根を越え全体の絵図を眺めることのできる、稀少なポジションだと考えています。以前は組織を形作るひとつのピースとして内調全体を見ようとしていました。現在は、組織全体が収斂していく一つの集束点から内調全体を見えています。時に全く異なるセクションから上がってくる全く違う内容の分析が、最後には一つの答えを共に導き出していくことがあります。そんな情報の世界の神秘に触れたような瞬間が幾度もありました。点と点が繋がる時に走る「ピピッ」とした衝撃、これから入ってくる皆さんと、ぜひこの感覚を共有したいです。

国内部門



ベテラン職員・男性

マニュアルのない仕事

私は、内閣情報調査室の国内部門で、情報を収集する業務に就いています。毎週、内閣情報官が実施している官邸報告を下支えするため、今の官邸の関心事は何なのかを考えて、それに値する情報を集めようと、様々な方にアポイントを取って、人に来て話を聞いて回っています。

人との接し方に定型的なマニュアルはありません。自分なりに、「情報を持つ方はだれなのか」「どうやってアプローチするのか」「どうやって相手から話を引き出すのか」を考え、思い悩み、試行錯誤する毎日を過ごしています。

私は、集めた情報について、どのように扱われていたのか、評価されたのかされなかったかを知り得る立場にはありませんが、様々な知見を持つ方と出会うことや、新しい情報に接すること自体に面白さ、やりがいを感じてやっています。

今、就職先を悩まれている学生の皆さんには、当室にこのようなヒューミントの仕事があることも知っていただいた上で、選択肢の一つに検討いただければ幸いです。



若手職員・男性

社会情勢と向き合う仕事

私は現在、国内部門で国内情勢・政治に関する公開情報を収集・分析し、報告資料を作成しています。

政府の政策や、世の中で起きた出来事に対して世間がどのような反応を示しているかを、マスコミの報道からまとめることが主な業務です。世間の意見と官邸をつなぐ、民主主義においてとても重要な業務に日々やりがいと責任を感じながら働いています。資料作成は時にスピーディーさが求められる場合や、官邸からの至急のリクエストもあるため、いかに早く正確に業務を行えるかが重要になり、日々の地道な準備や、常に改善点を見つけていくという姿勢がかかせません。

日々めまぐるしく変化する社会情勢と向き合い、刺激ある内調生活を送りたいという方をぜひお待ちしております。



02

キャリアと未来 内調職員の声

**インテリジェンスとは、
行動するための知識である。**

一層の複雑さを増す国際社会、難解さを極める国内情勢。混迷の時代に、国家という巨大な船をどのように舵切るか——インテリジェンスは、行動を助ける知識として、日々政策決定者の元へ提供されている。

日々内調業務に従事する職員は、どのようなことを考えながら働いているのか。内調職員の声を聞いてみよう。

対談

情報の世界について
(ベテラン職員編)

採用20年以上の職員に、
内調について語っていただきました。

—「情報」と「国益」はどのように結びつくと思いますか。

C 内調の場合、まず国益の定義が難しいですね。経済系の官庁であれば、国益は「富を増やすこと」と答えるでしょうし、福祉関係の官庁であれば、「セーフティーネットを増やすこと」と答えるかも知れません。一方、内調は「内閣の重要政策」に関するものであれば、どんな領域の情報も取り扱っていますので、特定の分野に絞って答えることが難しいです。

A たしかに。私たちの場合「国益がなにか」を考えるよりも、「国益を守れるかどうか」が重要な気がします。情報の役割は、日本が様々な場面であらゆる国益を損なうリスクを回避するため、総理官邸にアラームリングすることではないでしょうか。

C そうですね。私の場合国際関係を見ているので、日本が国際社会でどう振る舞えば将来にわたって日本の利益を最大化できるのか、常に意識しています。リスクとは、必ずしも現在の状況が脅かされることのみを表すもの



ではなく、将来の好機を逃さないようアラームリングすることも含まれます。例えば、朝鮮半島の核、米中の政治・経済関係の推移、中東情勢と我が国の資源安保等の諸問題について、的確な現状把握と分析を積み重ねていくことが、国益を守ることに繋がるのではないのでしょうか。

—「情報の世界」に神様がいたら、どんな神様だと思いますか？

B 新人の頃は、「何が分からないのか分からない」ようなつかみ所のない世界だと感じていました。しかしこの世界に慣れてくると、一見無秩序に見える世界にも一定のリズム・流れ・論理があることがわかるようになりました。「この分野については自分ほど詳しい者はいない」と自信満々になったその瞬間、一片の情報によってその自信を木々端みじんに打ち砕かれる…そんな「小悪魔」的な(笑)存在が、「情報の世界」の神様だと思います。

C 「小悪魔」の存在は自分も感じたことがあります(笑)。情報業務の真髄に触れたと感じても、しばらく経つと「まだ分かっていなかった」と思い知らされる、その繰り返しです。そんな「経験」を通じて段階的に習熟していく、深みのある仕事だと思っています。

A 「神様」というと難しいね。つまりは「情報の本質とはなにか」ということかな？

C 私は、ひとつひとつの情報には「使命」が宿っていると感じます。使命を帯びた情報がユーザーに届けられ、政策という「果実」を生んだ時、その情報は使命を終えて「消えて」いく。よく「情報の鮮度」という言い方をしますよね、「時機



Aさん 男性

アジア情勢の分析業務に従事。パン屋めぐりが趣味の気さくな職員さん。お酒が強く、日本酒を水のように飲み続けられる。



Bさん 男性

中東情勢の分析家。言葉の切れ味と的確さが信頼を集める、寡黙な読書家。好きなスイーツはモンブラン。



Cさん 男性

広くアジア地域の情勢分析・情報収集を長年担当。プレゼン力に定評がある。おおらかな笑顔がトレードマーク。

を失った情報は紙くず同然」という意味なんです。それって時間が経つと、情報の「使命」が失われるということだと思えます。膨大な情報の海の中から、「使命」を帯びた情報を取りこぼさずにすくい上げること、それが情報業務なんじゃないでしょうか。

B 私は、情報業務の本質は「人間というものへの理解」だと思います。あらゆる社会現象は「人間」が引き起こすものですからね。

—業務を通じて、歴史的な場面に遭遇した経験はありますか。

A 以前ある国に出張滞在中、その国の要人が銃撃される事件がありました。よくわからない混乱した状況の中で翻弄された経験があります。その後もなぜかその国に行くと、滞在中になにかしらの事件が起こるんです。記録的な大雪が降ったりとか(笑)



B すごいね、なにか持ってるんじゃないの?(笑)

A 現地の知り合いには、「おまえが来ると必ず事件が起きる」と警戒されています(笑)

C ちょっとこわい経験談が続いちゃうけど、私は在外公館で勤務していた時、民主政権を排除する軍事クーデターが起きたことがあります。他にも、「テロとの戦争」が展開される国の隣国で分析業務をしたり…もちろん、いずれの業務も安全が確保された環境下で行いました。

—内調という組織を人間に例えるとして、今何歳だと思いますか？

A 内調はどんどん新たな業務が増え続けていて、まさに「成長期」と言いたいところですが、それなりに歴史もあ

ることですし、さすがに10代とは言えないかなあ…



B 30代くらいですかね。

A うん、働き盛りの30代半ばって感じです。

B ある程度自分のやっていることに自信がついて、社会の中でもその地位が確立され始めた頃。でもまだまだ多くのことを学ばねばならず、また将来に大きな可能性を秘めている、とも言えますね。

C 今の業務を発展させていくのかも知れないし、場合によっては全く違う仕事を任せられ、生まれ変わる時も来るのかも知れない。「永遠の0歳」とも言うべき存在かもしれないですね。

—最後に、内調を目指す受験生の皆さんにメッセージをお願いします。

A 内調が扱う情報業務は、自身の人間性や能力を大きく成長させることのできる魅力的な業務です。自分の中で限界を作らず、たくさんの人に会い、様々なことに挑戦できる職場だと思いますし、これから入ってくる皆さんには、その中で自身の秘めた潜在能力や可能性を大きく開花させて欲しいと思います。

C 色々お話ししましたが、「内調」や「情報業務」について、一言で説明することは難しいです。もし皆さんが内調に入ったら、様々な内容の業務を経験していくことで、きっと自分なりの「内調観」を持つようになるでしょう。そのイメージは、一見各人各様に思えるでしょうが、そこには内調(情報)業務に共通のなにかがあるはず。自分の中の「内調像」が、くっきりとした実像に変わっていくまでは、まずはがむしゃらに頑張りたいと思います。皆さんが内調の一員になってくださるのを楽しみにしています。

対談

情報の世界について
(中堅職員編)

採用から10年前後の中堅職員に、
内調について語ってもらいました。



— 出向経験のある方にお聞きします。外から見た時の内調の特徴があれば教えてください。

C 私が出向して感じたことは、情報そのものを扱う業務が、官公庁の中で非常に特殊だということです。他の省庁では、政策の実現・調整が業務の中心を占めているので、なかなか腰を据えて情報を収集・分析することはできないのですが、内調はそこに特化しており、専門の業務としています。

A 言い尽くされているかもしれませんが、やはり内調の強みは官邸直轄である点だと思います。情報を収集するにせよ、分析するにせよ、その結果には「官邸直轄である内調が収集/分析したものである」という付加価値がつきます。また、他の省庁であれば「情報の渦」に巻き込まれて埋もれてしまうような情報が正に官邸が今求めているものだった、なんてこともしばしば経験してきました。そうした官邸の考え・関心を身近に感じることができるのは、内調ならではの特色だと思います。こうした重みのある業務を、年次・立場を越えて1人1人がやり遂げていく、そんな意識・やる気次第で大いに成長できる環境だと思います。

— 学生の頃と比べて、ニュース・新聞の見方に変化はありましたか。

C 一番変わったのは、「報告する価値があるか」という目線で見えるようになったということです。学生の頃から、国際政治や経済のニュースを見ることは好きでしたが、ただ漠然と世間を騒がせるニュースをつまみ食いするだけでした。一方内調では、メディアでの扱いに囚われることなくニュースの価値を判断します。時に、ニュース番組ではほとんど取

り上げられることのない情報が非常に重要だったり、その逆のこともあります。採用から数年たった今では、そのニュースに報告する価値があるか、という点に注目して見るようになりました。



B そうですね。私も内調に入ってから、報告書を作ることを想定してニュースを見るようになりました。官邸の情報関心を意識するのもそうですし、あとは、情報の確度を考慮するようになりました。可能な限り一次情報に当たるようになりましたし、特に海外発の情報については、原文に当たり、自ら解釈する事を心がけています

A 私の場合は、自分の業務に関係しなくても、幅広く記事を読むようになりましたね。職場内外の方との間で話のネタになりそうなニュース(政治・スポーツ・天候問わず)はチェックするようになりました。収集業務をする上でも大切な習慣だと思います。

B 自分の担当分野を越えてニュースに目を通すことは、私も心がけているところです。分析業務をしていると、世の中



国際部門で渉外業務に従事。アツくてカッコいいお兄さん。若手から中堅職員までのまとめ役的存在。



総務部門で分析業務を担当。お酒が大好きで、飲むと誰とでも仲良くなれる気さくなお姉さん。



国際部門で地域分析を担当。冷静で安定感があり、後輩からとても頼られるお兄さん。休みの日は家族で登山に出かけるのが趣味。

の事象には多くの分野の事象が密接に関わっていることを実感します。一点だけを見つめていても、全体像が掴めないというか、思わぬところで思わぬ情報同士が繋がったりすることがあります。

— 現在のインテリジェンス業界全体の‘HOT ISSUE’は何だと思いますか。

C 既存の分野が引き続き重要であることは言うまでもありませんが、インテリジェンス業界全体として、最近特に重要性が増しているのは、AIやサイバー等の新しいテクノロジーだと思います。仮想通貨やブロックチェーンの技術等、政治や経済が積極的に新しいテクノロジーを取り入れているため、分析業務を行うに当たり、この動きについて行くことは必須と感じています。

A サイバーは比較的新しい領域ですし、「成長産業」ですよ。内調でも今後、技術系職員の活躍がさらに期待されると思います。

C そうですね。でも技術系職員だけでなく、サイバーはその分野の専門家も見ておくべき領域だと思います。テクノロジーは、私たちの日常にあまねく浸透する生活の基盤です。多くのビジネスチャンスがあり、巨万の富を生み出しています。だからこそどの国も注目しているし、各国の様々な政治的思惑を生みやすい。たとえサイバーの専門家でなく、地域情勢や経済など、異なる分野の分析を担当していたとしても、ウォッチしていくべきだと思います。



— 今まで経験した業務の中で、一番「内調らしいおもしろさ」を感じた瞬間を教えてください。

B 他省庁との調整業務を行う部署にいた時かな。内調から官邸へと情報が提供され、国の方針が決定されるというダイナミックな流れを体感することができました。よく言われ

るのですが、内調は「政策決定者」と「情報コミュニティ」を繋ぐ結節点です。両者の橋渡しという重要な役割を担っていると実感できました。

A 本当に、そういうダイナミックさは内調ならではのですね。数年前に「シン・ゴジラ」という映画が話題になりましたが、あの映画では未曾有の事態に対し、霞ヶ関の役人が次々に官邸に情報をあげて、官邸幹部がそれを元に意思決定するという、ダイナミックな一連の流れが描かれていました。次々と情報が吸い上げられていくスピード感、意思決定に至るまでの官邸の動静や息づかい、政策となり世に出る時のインパクト、それらを一続きの流れとして、見て、体感することができる。ちなみに、若手の頃に長い期間調整業務を担当しましたが、今でもあの頃の仕事には思い入れがあります。私は調整業務が大好きなんですよ。

C 私は、分析業務から見た内調の魅力として、若手であっても総理大臣への報告書作りに携われる、という点を挙げたいです。他省庁では、総理大臣への報告資料を作る機会なんて、役人人生で1度あるかないかだと思います。自分自身が集めて分析した内容が、直接官邸に報告されるという責任と面白さは内調ならではのですね。

— 内調を志望する受験生の方へ、最後にメッセージをお願いします。

B 皆さんが受験する採用区分の中では、特に知的な仕事ができる職場だと思います。皆さんはこれから様々な職場を訪問し、進路を決めていくことだと思います。私が最終的に内調を職場に選んだ理由は、官庁訪問の際、様々な先輩方とお話させていただく中で、先輩方が業務についてお話をされる際の瞳の輝きでした。皆さんにも実際に当室を訪ねいただき、内調の魅力を見つけていただければ幸いです。

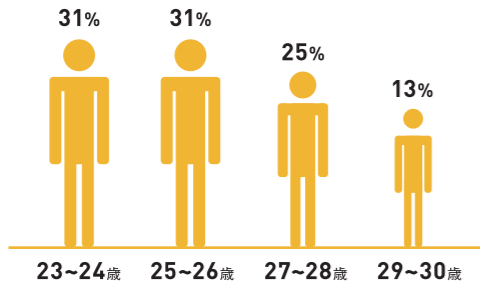
C 情報収集・分析を主な業務とする内調の仕事は、霞ヶ関の中でも特殊です。そのため、皆さんが抱えている一般的な公務員とは少し違うところもあるため、ぜひ説明会に顔を出して、分からない点や気になる点を積極的に聞いてみてください。

A 内調がひとつの組織として能力を高めていくためには、プロパー職員が中心的役割を果たしていくことが不可欠です。意識を高く持ち、自分が組織を支える、という気概を持って一緒に働ける人に、ぜひ来ていただきたいと思います。

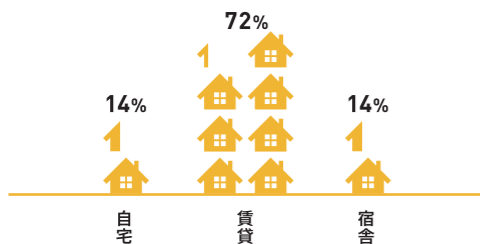
若手職員の働き方

内閣情報調査室では、多くの若手職員が第一線で活躍しています。
多士済々な若手職員23名の声から、内調で働くあなたのイメージを膨らませてください。

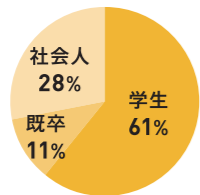
Q.01 若手職員の年齢構成は？



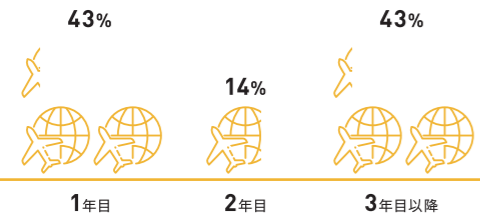
Q.03 自宅？賃貸？宿舎？



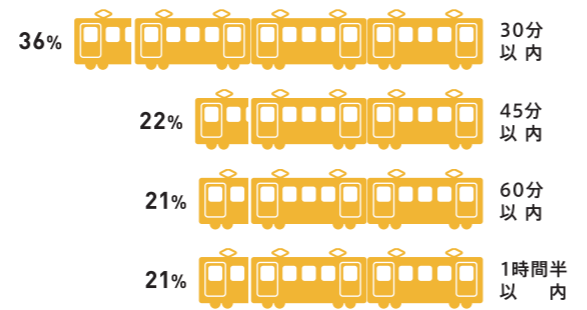
Q.05 官庁訪問時は、学生・既卒・社会人(転職中)のどれでしたか？



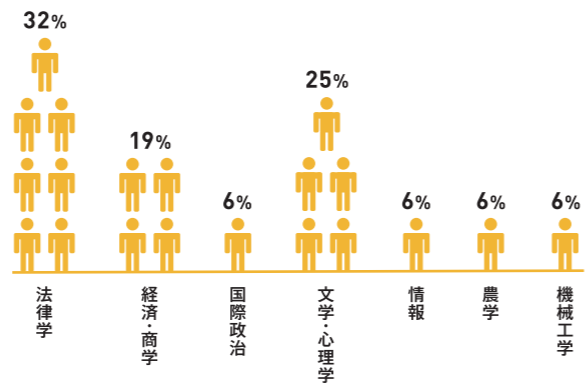
Q.07 海外出張した人へ。初めて行ったのはいつ？



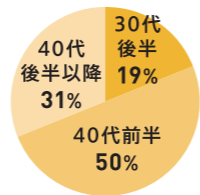
Q.02 職場までどれくらい？



Q.04 大学(院)での専攻は？



Q.06 上司は何歳くらいの人？



Q.08 退庁時間は？



Q.09 内調の志望動機は？

- 「組織・業務の特殊性」**
- ▶ 知的な仕事だと感じたから。長い公務員人生になるが、新しいことを学んで刺激を受けつつ過ごしていきたいと考えていた。
 - ▶ 職務の専門性の高さ。ジェネラリストとして多数の領域をつまみ食いするよりは、一つの分野を極めるスペシャリストになりたいと感じたため。
 - ▶ 情報を専門とした省庁は他にほとんどないため。また、官邸と距離が近く、スケールの大きい仕事ができると思った。
 - ▶ 政策を立案するにしろ、国民を保護するにしろ、最初に必要なかつ重要になるのは、情報収集だと感じたため。
- 「幅広さ」**
- ▶ 一つの分野に囚われない、組織としてカバーしている範囲の幅広さに魅力を感じた。
 - ▶ 活躍のフィールドの幅広さ。オールソースアナリシス(ヒューミント・イミント・シグント等数多の情報源から分析を行う)の体制を構築しており、他省庁からの出向者も多く、人材交流が盛んであると感じた。
- 「職員の魅力」**
- ▶ 面接で出会った職員の頭の回転の速さに惹かれ、一緒に働きたいと思った。
 - ▶ 説明会で職員の方が明るく、何でも論理的に答えてくれて、印象が良かった。
- 「その他」**
- ▶ 安全保障に貢献できる場で働きたいと思ったため。
 - ▶ 若手でも裁量をもって働けるという点。

Q.10 民間企業と併願しましたか。

- 併願した 36% 併願なし 64%
- 「併願先等」**
- ▶ 新聞記者と併願。ジャーナリストと併願を考える人は多いのでは。内調とマスコミの違いは、顧客の違い(提供先が官邸か、その新聞の購読者か)だと思う。
 - ▶ 金融機関と併願。民間企業は利益追求を目的とするが、国家公務員は国民の福利に合う解を導くことを目的とする。自分は後者のほうが向いていると感じ、国家公務員を選択。
 - ▶ バラリーガルと併願。国家公務員の特徴は、どの分野でも国の政策に繋がっているスケールの大きさにあると考え、国家公務員のほうを第一志望とした。

Q.11 「仕事ができる人」ってどんな人？

- ▶ 指示がなくても、相手が求めていることを察知して、素早く行動できる人。
- ▶ 冷静な人。緊急事態に対処することも多い職場なので、どんな時でも心の中で一拍置けることが大事だと思う。
- ▶ 仕事を後回しにしない人。定時内で効率よく仕事をこなしていく人。
- ▶ 指示が明確な人。混乱した場だと指示が錯綜することがあるから。

Q.12 「内調」を一言で表すと？

- ▶ 人種のるつぼ(様々な省庁からの出向者も多く、良い意味で組織のカラーがない)
- ▶ 可能性をひらく舞台装置(内調にいなければなかったであろう人との出会いや、立ち会うことのできなかった場面があるので)
- ▶ 一騎当千の黒子(表に出ることはないが、水面下で活躍している)

若手職員の1日のスケジュール

1年目職員(集約センター勤務)の1日

7:00 7:30 8:00 9:00 10:00 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 18:00 18:15 20:30

Aさん

- 7:00 今日会議のために早めに登庁。新聞チェック・メールチェック
- 7:30 朝一で行う会議資料を上司に確認してもらい、コメントが出た部分を修正。
- 8:00 会議
- 12:00 官邸の食堂でごはん。お気に入りはおそば。
- 13:00 官邸勤務、報道チェックしつつ、ニュース資料を官邸内に配付。
- 17:00 明日の情報官への提出資料を作成。
- 18:15 退庁

2年目職員(学識経験者の提言取りまとめ業務担当)の1日

7:00 7:30 8:00 9:00 9:30 10:00 10:30 11:00 12:00 13:00 14:00 15:00 16:00 17:00 17:30 18:00 18:30 20:30

Bさん

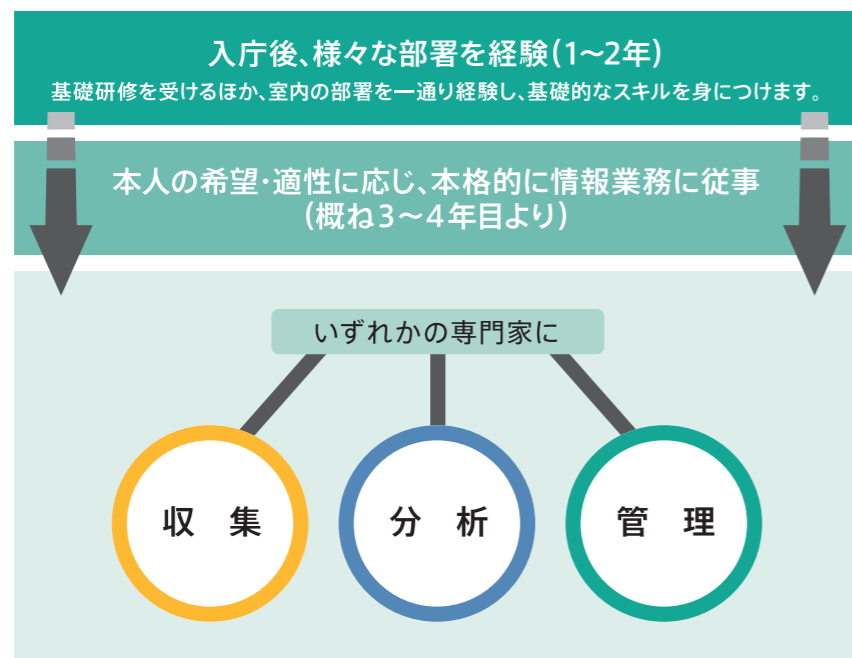
- 7:00 起床したらニュースチェック。国会がある日はスナックタイム!
- 7:30 登庁。メールチェック。
- 9:30 今日の国会用資料が雑々と届く。手際よく印刷・ソート。
- 10:30 お昼の国会。興味深い話の宝庫!今日の報告に載せることに。
- 13:00 さっそく資料作成へ。締切りまで1時間半!時間のない中でも、事実関係の確認、誤字・脱字のチェックは怠らない。
- 14:00 報告が無事済んだとの連絡が。よかった!
- 15:00 夜の国会の準備。忘れ物チェックは欠かせない。
- 17:30 夜の国会。出席者の選考連絡があれば、丁寧に関係者に連絡。
- 18:30 国会終了。資料作りは明日、手際よく撤収し退庁!

今日も一日おつかれさまでした!

キャリアステップ

日本の情報コミュニティの柱となる人材の育成を目指し、内閣情報調査室では様々な研修のほか、他省庁への出向、在外公館勤務等、キャリアアップのための豊富な機会を積極的に設けています。多種多様な経験を経て、収集・分析・管理のいずれかの専門家になることを目指しています。

キャリアステップ・3つの柱



語学習得の支援

語学学校への通学補助を行っています。採用3年目から応募することができます。

研究員派遣制度

人事院の研修制度(長期在外研究員派遣制度、行政官短期在外研究員等)を活用して、「専門性」に磨きをかける機会を設け、職員がスキルアップできる環境を整えています。

在外公館勤務

内調職員として培った知識・経験を活かして海外で勤務します。在外公館勤務は海外で多様な人々と仕事をする貴重な機会であり、希望する職員には積極的に機会を与えています。

他省庁への出向

専門性を強化し行政実務経験を積むため、これまで情報コミュニティ省庁(警察庁、公安調査庁、外務省、防衛省)や内閣府等への出向の機会を付与してきました。また、内閣衛星情報センターで衛星画像分析業務に従事することもできます。

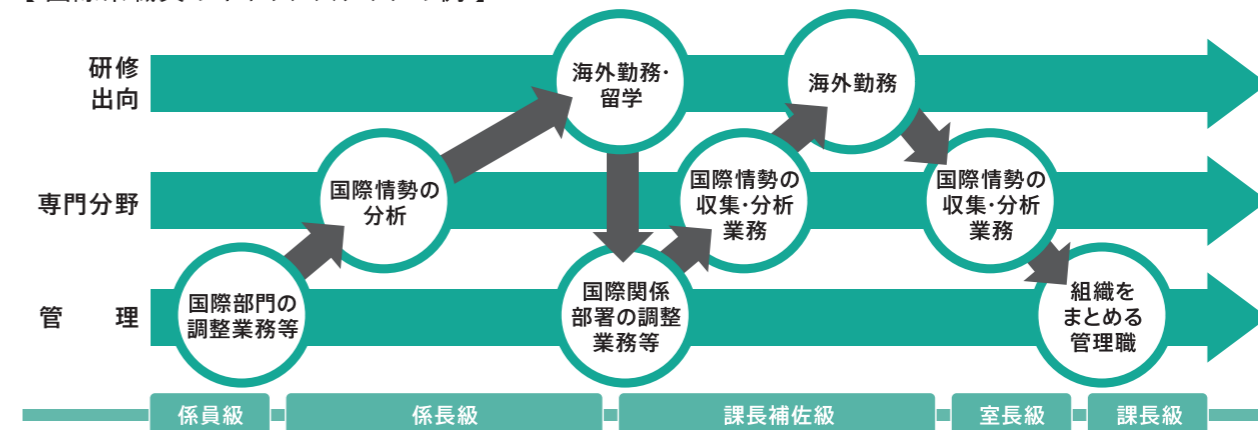
新任者研修

新規採用の職員向けに、3回に分けて実施します。保全教育に加え、情報機関の役割、各部門の業務を知ることで、日本の情報体制及び内調の全体像を具体的に把握し、内調の主力となる人材の素地を作ることを目的としています。

国際系職員のキャリアステップについてはP22へ>>

キャリアステップ ~海外駐在・留学等~

【国際系職員のキャリアステップの例】



コラム

在外公館経験者

今から10年以上前、私は東南アジアの日本大使館に赴任しました。

帰国子女でもなければ留学経験もない、そんな私の苦勞は皆さんの想像に難くないでしょう。ノートテイカーとして作成した記録を上司によくダメ出しされました。必死に食らいついた2年間、上司のダメ出しは静かなOKサインへと代わっていき、まだまだ努力すべき余地はありつつも、成長の実感を胸に帰国したのを覚えています。その後、中堅職員になってから2回目の大使館勤務を経験し、気がつけばキャリアの3分の1を外務本省及び大使館で過ごしています。

現在は国際部門で渉外業務を担当しています。外国機関との連携の中で、諸外国が何を内調に期待しているのかをつぶさに感じ取ることができます。逆に、内調

として彼らになにをアピールし、売り込んで行くのか、模索する日々です。

大使館では東京よりも個人の実力が一層試されるため、自己研鑽が欠かせませんでした。特に、2回目の大使館勤務は初代の駐在官だったため、大使館の内外において、どう自分を売り込み、人間関係を構築するか、「自分という個」をいかに磨くかに注力しました。大使館勤務の中で培ったこれらの経験は語学力以上に私のキャリアの柱となっています。これから内調に入ってくる皆さん、留学経験がなくとも、帰国子女でなくても、ぜひためらわず手を挙げて欲しいと思います。苦勞の向こう側にある面白さをぜひ経験してみてください。

国際テロ情勢の収集業務担当者

現在、国際テロ情報収集ユニットで勤務しています。当組織は邦人が巻き込まれるようなテロ事案の発生に備え、①各国の治安情報機関との強固な協力関係の確立、②我が国独自の情報収集に取り組んでおり、ユニットが収集したテロ関連情報は、③政府内の関係機関と速やかに共有され、テロ攻撃を未然に防止するための施策が、より有効に実施されることに貢献しています。

これらの業務を担当する個々の担当官には、語学力、地域情勢に関する専門知識が求められるのと同時に、人間力、あらゆる事態・状況に物怖じしない胆力、そしてそれらを向上させたいという向上心と情熱が求められます。このような能力をバランス良く身につけることは容易ではありません。

こうした能力を身につける方法として、海外で経験

を積むことは大きな財産になるでしょう。当室では、在外公館勤務を経験する機会が多く用意されています。私も中堅職員となった頃、3年間在外公館に派遣されました。大使館の勤務では、日の丸の下、国益を追求するべく相手国政府の人間と交流し、邦人を保護・支援する現場も多く経験することができました。またユニットでは、担当する地域に出張する機会も多く、外国政府の関係者と価値観を共有する機会にも多数恵まれます。当室における日々の業務は、専門能力をバランス良く向上させるための好機とも言えましょう。

日々緊張感をもって業務に取り組んでいます。志と情熱を共にする仲間と一緒に、失敗を恐れず、後世に語り継ぐべき好事例をひとつでも多く積み重ね、未来のユニットの礎となるよう組織に貢献したいと考える今日この頃です。

両立支援(ワークライフバランス)制度

内閣情報調査室では、職員のワークライフバランス両立支援を目的とし、以下の制度の推進に取り組んでいます。

◆産休・育休制度

【女性職員の場合】

《産休制度》

産前6週間～産後8週間までの期間に取得する

【全職員対象】

《育休制度》

子が3歳に達する日までの期間取得可

※特に男性職員については、生後1年の間に1箇月以上の取得を推奨

◆育児に係る時間短縮制度

《保育時間制度》

生後1年未満の子を育てる職員(男女問わず)が、1日2回30分ずつ取得可

《育児短時間勤務制度》

小学校就学前の子を育てる職員(男女問わず)が、希望する日・時間について取得可



◆各種休暇制度

《年次有給休暇(年休)》

理由を問わず取得できる休暇。毎年20日ずつ付与され、前年の未使用分は20日まで繰り越せる。

《特別休暇》

用途の定められた休暇。冠婚葬祭や夏期休暇(3日)など。

《生理休暇》

生理日の就業が著しく困難な場合に取得できる。

《病気休暇(有給)》

休まなければならない場合、最長3箇月間取得できる(有給)。

◆職場環境整備のための取組

《ハラスメント研修》

内調独自に行っている、係長級以上の職員を対象とした研修。セクハラ・パワハラ防止を目的としている。



コラム

女性職員の声:何かを犠牲にする仕事はしない

私は現在、内調のもとに置かれる内閣衛星情報センターに出向し、各省庁との調整業務等を担当しています。内調職員って毎日何しているの?という疑問に答えるべく、ある日の一部を御紹介します。

朝は時間との闘いです。子供は小学生。昨日は色々あって帰りが遅くなりましたが、子どものお弁当を作らねばなりません。家事は工夫が肝心、令和は自然解凍の冷凍食品も充実しています。

そして出勤。今日は塾のお迎えもあるので、優先順位を考えつつ仕事をこなします。

上司に予定を伝えることで配慮してもらえる環境です。公私ともバランスの取れた働き方ができることにいつも感謝しています。

時には仕事の鬼になることもあります。ただ、自己満足かもしれませんが、「家庭を犠牲にしている」と思うような仕事はしないよう、誇りを持って業務に邁進しているつもりです。子供にもそんな背中を見て育てたいと思っています。

困ったことがあれば相談に乗ります。皆さんが、内調の門を叩いてくださることを期待しています。

待遇・制度、採用について

内閣官房は原則として各省庁からの出向者で構成されていますが、内閣情報調査室は其中で唯一独自の採用を行っています。

採用数一覧表 ※()内は女性の数

試験年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度(予定)
行政区分 技術系区分	4(2)	5(3)	5(1)	12(4)	10人程度

※内閣衛星情報センターについては、本室とは別に採用を行っています。
令和2年度の採用実績は、行政区分4名、技術系区分3名です。

官庁訪問 Q&A

Q.01 採用はどのように決定しているの?

官庁訪問では、1人の学生に対し複数回の面接を行っています。面接は、他省庁の官庁訪問より多いかもしれません。受験者の人柄、企画力、コミュニケーション能力、将来性等を総合的に評価します。

Q.02 求める人物像を教えてください。

- 情報収集・分析等のプロフェッショナルとなる「強い意欲」をお持ちの方
- 広く社会全体にアンテナを高く張り巡らせる「視野の広さ」、物事の背景を解き明かしたいと思う「好奇心」をお持ちの方
- 時に困難な状況にあっても、解決策を見出そうとする「粘り強さ」のある方

上記に限らず、当室にご興味のある方は積極的に門を叩いていただければと思います。

Q.03 技術系の採用は行っていないの?

技術系区分についても積極的に採用を行っています。採用人数についても、令和3年度全体で10名程度の採用を考えており、技術系区分は0名まで、という制限もありません。技術系の全区分で受験可能ですので、ご興味のある方はぜひ官庁訪問にお越しください。

Q.04 語学力はどれくらい求められますか?

当室では、国際関係業務は拡大傾向にあり、採用後の業務においても語学力が要求されることがあります。しかし、官庁訪問時に必ずしも高い語学力を有している必要はありません。自信がなくとも積極的に挑戦いただければと思います。ただ、国際関係業務を志望する方は、採用後に身につけようとする意志は持っていて欲しいと思います。

Q.05 これまでの採用実績は?

昨年より10名前後採用しています。国家公務員の定員が削減傾向にある中、業務の重要性から、採用数を増やしており、本年度も国家公務員一般職(大卒程度)からの採用を予定しています。

◆初任給(令和元年度現在)

一般職(大卒程度試験)合格の場合
行政職(一)1級25号俸
225,840円(地域手当、本府省業務調整手当含む)
※大学院卒、社会人経験のある方は俸給月額が加算されます。

◆賞与(ボーナス)

期末手当、勤勉手当として、年間4.50月分

◆諸手当

扶養手当、通勤手当、住居手当、超過勤務手当等

◆勤務地

内閣府本府庁舎(東京都千代田区永田町1-6-1)・在外公館等
※国内では東京23区以外の勤務地はありません。

◆勤務時間

原則 9:30~18:15

◆休日

年次有給休暇20日間
(4月採用者は、その年の12月まで15日間)
特別休暇(夏季、結婚、忌引等)
※仕事と育児・介護の両立を支援する制度があります。

◆福利厚生

共済組合制度(医療費の給付、診療所、契約施設(保養所等)の補助)、グループ保険制度(団体保険、団体積立)、診療所(内科、歯科)、直営病院(虎の門病院等)での診察、定期健康診断、人間ドック

2020年度採用スケジュール

国の総合戦略機能を担う内閣官房は、原則として各省庁からの出向者で構成されていますが、内閣情報調査室はその中で唯一独自の採用を行っています。

4月	3～15日	国家公務員採用一般職試験(大卒程度)受付期間
6月	14日	第一次試験日
7月	8日	第一次試験合格発表/官庁訪問予約受付開始
	10日	官庁訪問開始
8月	15日～8月10日	第二次試験(人物試験)日 ※官庁訪問休止期間
	18日	最終合格発表日
10月	1日	採用内定

採用担当者からのメッセージ



皆さん、このパンフレットを見てどう思いましたか。日本のために貢献しようという職員の熱い思いを少しでも感じてもらえたでしょうか。私たちは日本の情報機関員として日々起こる国内外の国家的課題に取り組む仕事をしています。それは霧の中で形を探っていくような、そして常に変化、進化し続ける世界ですが、とても挑戦しがいのある仕事です。

近年、業務が拡大する中、私たちは、与えられるものを待つのではなく、チャレンジ精神を持った人を求めています。

情報機関の仕事は多種多様であり、日本の安全保障に関する仕事なので公開できない部分も多いですが、ぜひ、直接、職員から話を聞いて、自分がやってみたい職場、仕事なのかどうか確かめてみてください。

内閣情報調査室の説明会情報

内閣採用ホームページを御確認ください。

http://www.cas.go.jp/jp/saiyou/saiyou_index.html(内閣官房ホームページ→採用情報)



連絡先

■ 内閣情報調査室

採用専用TEL 03-5253-2107

■ 内閣衛星情報センター

採用専用TEL 03-3267-9564

内閣情報調査室の歴史と発展

内閣情報調査室は、戦後、我が国が再び国際社会の荒波に耐えうるよう、旧総理大臣官邸の小さな室で産声をあげました。着実に発展の道を歩み、年々組織の重要性が高まっています。

